

愛犬クイズ+イヌと一緒に楽習運動：訓育遊技—MedleyBasicObedience

メドレー・ベーシック・オビディエンス

主管：ドッグスポーツ愛好会 wanco@dogsports.jp

日本では室内で暮らすイヌが増え、栄養や健康管理(ケア)も良くなり、イヌの寿命もヒトと同様に延びています。良いことばかりではなく、イヌにもヒトと同じように肥満や痴呆症などの問題も起きてきています。今後、日本の犬の登録頭数が500万頭近くに落ちたとしても、日本のイヌを取り巻く現状から、イヌが自由に運動できることによる病気の予防などに繋がり得るハードとしてのドッグランのような設備需要は、これからも増えていくのではないかと思います。

ハード的な面が整っていくなか、ソフト面から考えてみると、イヌの運動量・質の改善やコミュニケーションを深めるため、ドッグランなどではまだいろいろな試みが可能なように思われます。本格的なドッグスポーツではなくとも、より簡便なドッグスポーツを取り入れてみることでイヌとの暮らしに、潤いもさらに増してきます。ドッグスポーツはイヌのためばかりでなく、ドッグオーナーも同伴犬と一緒に上達する喜びを楽しむことができます。しかし、本格的なドッグスポーツを楽しみたいドッグオーナーばかりではありません。そうしたドッグオーナー向けのニッチ・ドッグスポーツとして、「メドレー・ベーシック・オビディエンス」を考えてみました。

このゲームから、ドッグオーナーが同伴犬の運動の大切さの理解を深められるとともに、イアン・ダンバー博士が、ゲームを通してイヌがしつけられていくように考えた「K9ゲーム」と同様の効果を期待しています。楽しみとしてばかりではなく、イヌがヒトの社会で暮らすためのマナーも「メドレー・ベーシック・オビディエンス」にチャレンジするなかから、学び取ることも可能ではないかと考えています。

メドレー・ベーシック・オビディエンスはベーシック・オビディエンス(準備訓練)の習熟を図れるばかりではなく、アジリティーやオビディエンスなど、世界中で楽しまれている様々なドッグスポーツの基本訓練にも繋がるゲームです。

■訓育遊技／メドレー・ベーシック・オビディエンスの概要

MedleyBasicObedience メドレー・ベーシック・オビディエンス 訓育遊技

わんこと対面から、足元に呼び戻す

「招呼」

180° ターン

犬

基本姿勢で待つ

一緒に歩く
約2m

リードを持って
人だけ戻る

スタート

リードを持って対面から
犬を足元に呼び戻す。

同伴犬に付けたリードをどちらかの手に持って、スタート位置から約2m前方のポジションに向かって歩きます。決められたポジションに着いたら、180° ターンしてスタート地点に向いて、止まります。同伴犬に基本姿勢(フセ、オスワリ、タッテ)の指示をかけます。
同伴犬が基本姿勢を取れたならば、ハンドラーはリードを持って、スタート地点に向かって歩きます。リードが若干緩んだ状態で対面できる位置まで移動し、向き合います。アイコンタクトがとれたら、同伴犬を呼んで足元に戻ったら、終了です。

メドレー・ベーシック・オビディエンス 犬種クイズ
問：幕末の日本に艦隊を率いて来航したペリー提督が、アメリカに連れて帰ったという日本原産の犬種は、次のどれでしょう？

- ① 日本テリア
- ② 秋田
- ③ 日本スピッツ
- ④ 狆

書いたプレートやクイズの設問の書かれたプレートを設置します。廻る順番を決めて同伴犬と一緒にスコアシートに記入しながら、チェックポイントをクリアしていくゲームです。